



不登校の保護者への支援 ～ 混乱期の不登校対応 ～

子どもの不登校が長引き、昼夜が逆転しており、家庭訪問しても会いにくい状況です。子どもが動かない時は保護者を支援するのが大事だと言われました。どうすればよいでしょう？



一言で信頼を失う禁句集

- ・学校はやったので、次はあなたたちの番。
- ・高校は義務教育ではないですから。
- ・このままでは通信制ですね。
- ・お母さんが子離れできないのが問題です。
- ・検査でも受けてみたらどうですか。
- ・不登校のままで引きこもりになります。
- ・もっとがんばらせてください。



「先生は、私のことを分かってくれる・気にしてくれる・困った時に助けてくれる・いいところを認めてくれる」と思えるメッセージを

不登校は段階的な支援を行います。生活習慣が乱れる「混乱期」は、不安感が強い保護者を支援することが、子どもが元気になる早道です。

不登校の段階的な支援については、丹波教育事務所HPでTNBだより 令和4年7月号をご覧ください

一般に不登校の子どもも、保護者も、焦りや不安だけでなく、後ろめたさや申し訳ない自責の心で苦しんでいます。まず、その苦しさから自分を防衛する反応を知っておくことが、家庭訪問には必要です。

自分を守ろうとするときの反応

- ・ **攻撃**：学校や先生に対して批判的、攻撃的になる
- ・ **拒絶**：先生に会うことを拒む
- ・ **過剰適応**：無理して笑顔で応対してくれる

会えるから話ができるから安心だと考えていても、相手は過剰適応で無理を重ねている場合があります。

安全であるはずの家庭に踏み込む行為だと意識して、保護者を責めないで、パートナーになっていく姿勢が大切です。「一緒にやっていきましょう」と伝えてください。

ねがら いたわ

辛い辛いが 心の扉のマスターキー

苦しむ保護者が心を閉ざしている時、心の扉を開くのは、相手を尊重する態度を貫き通すことです。子育ての大変さを認め、がんばっていることや苦戦していることを労い、労う態度。それが保護者のエネルギーになります。

保護者への関わりの基本

- ① 責めない 子育ての大変さを認める
- ② 支える 見捨てない
- ③ 一緒に取り組んでいく

虐待の場合は 待たないですぐに対応を

子どもが動き出すにはエネルギーを貯める期間が必要ですが、虐待やネグレクトの場合は別です。物理的な虐待や、暴言等の心理的虐待を受けた子どもは、脳が傷つきトラウマ障害になっていることがあります。待っていたら取り返しのつかない場合がありますので、専門家への相談が必要です。虐待発見時には、通告義務が定められています。

(児童虐待の防止等に関する法律 第6条)

ゴールイメージ通りに母親が毎日花を飾るようにしたという小さな変化が家庭に影響して、子どもが元気になり、登校につながった例もあります。